昭和四年三月廿九日 第三種郵便物認可
（廿二日夕刊）昭和四年十二月廿三日 THE TOHOKU.NICHINICHI,SHINBUN （月曜日） 第三百十三号 （一）

夕刊 東北日日新聞
年中無休刊
本紙一ヶ月三十錢 郵税一五錢一部三錢
廣告料一行五〇錢 場所指定二〇錢増
發行兼編輯印刷人 石井孝
發行所 福島縣石城郡平町白銀町十番地東北日日新聞社 電八五三

比佐代議士等の運動も 奏効せず平小線着手は 昭和十年度に繰延べらる

然しそれも實現されるかどうか……？

明五年度より着手し同七年度迄には完成を見る筈であつた平小名濱間の平小線は現政府の緊縮に祟られて着手年度を繰延べ昭和十年度に着手し十三年度に完成と變更された

毎年當り通しの 印刷屋さんも

思つた程の仕事がなく 今年ばかりはヒカーン

慌たゞしい年の瀬はます〳〵迫る、そのあはたゞしい年の瀬を更らにせき立るやうな忘がしい騒音の中に今から大晦日まで、引ッきりなしの大馬力をかけて一年一度の書入れ時とばかり全く盆と正月が一緒に來たやうな繁忙さをこの緊縮、不景氣のをりに見せてゐるのは此處印刷屋の年の暮れである

×

即ち活字を中心として仕事をする活字屋さんと石版アルミ版、オフセット版等を用ゐて色々な刷物をする石版屋さんをのぞいて見る、今年は一体に仕事の注文がおそい、例年ならば今頃はもうとても忙しい時である筈が、矢張りこれもハマグチさんが祟つて緊縮の暗い影が色濃く漂つて思つた程の仕事がないと活版屋さんは云ふたが來る帝國議會の解散をあてこんで候補者連の年賀狀がある、更らに愈々解散となれば立候補の挨拶やら推薦狀その他の印刷が屹度あるだらうと今から取らぬ狸の皮算用

所で石版屋さんの方は商賣柄が一寸違ふがこれも同樣餘り有難い年も越せぬらしいが今のところの注文では緊縮節約、無駄排除又は昨今の防火宣傳等の官廳の御用ポスター撒きビラ、商店のレッテル、包み紙、辻ビラ、廣告果ては映画界の新年興行物の張りだしビラ等々の仕事が相當にある

×

だから職工連中は晝夜兼行で風呂にはいる暇もなく油ずみに顔も身体も汚れ放題 機械と一緒に休みなく働かねばならぬ始末、けれどそれだけ割增しがもらへるかどうか結局は例年通りといふからまあ上の部の方だらう、かくて印刷機の一廻轉毎に大晦日は近づく。

十六の小娘に 暴行を働いた男

一週間目で遂に逮捕

錦村の根本祐次（四二）

石城郡錦村根本祐次（四二）は去る十六日豫ねて懇意の同村居住竹細工商竹田次郎方假名に赴き金を貸すがお前の娘に渡すからと稱し次郎の長女ハナ（一六）假名を

自宅に 連行したが今は金がないから明日までまつてゐてくれと同郡勿來町旅館里見屋に連れ込み言葉巧みに言ひ寄り暴行せんとした爲ハナは大聲をあげ援けを求めたので根本はその場から逃走したこと植田署で探知根本の行方を嚴探中であつたが二十日同人が

實家に 舞ひ戻つたところを植田署の安田刑事が逮捕目下引續き嚴重取調中

緊縮講演會盛會

平商業工會主催の經濟緊縮講演會は既報の如く二十二日午前十時から平町藤田女學校に開催されたが非常な盛會であつた

漁も 畑作もダメ

小名濱町 極度に疲弊

師走の空に櫻が狂ひさきをするといふ最近の變態的の天候には專門家さいも觀測が出來ず手を燒いてゐる程であるがこの變態的天候にたゝられた結果大根が大凶作となり農民は一家離散の上他地方に出稼ぎに出ねばならない有樣である。石城郡小名濱町方部の農民は米作は豫想外の大凶作であり夏の西瓜栽培は不作それに加へて同方部の特産品とまでいはれてゐる大根が凶作なので生活費の捻出も出來ず極めて悲慘な狀態である由である

今日は冬至

今二十二日は一年中での最も日の短い日冬至である、この日冷酒を飲み、ゆづ油にはいる習慣や、南瓜を食べると長命するなどの言ひ傳へがある、また所によつてはけんちんそばに冬の寒さをしのぐなどいろ〳〵の冬籠りの準備をなす向きがある

節約の聲におびえて 極貧救濟もならず

町役場は嘆息を漏らす

師走の濱町情景

梅や櫻が咲いた等と薄氣味惡い冬の暖かさが漸く去つて、今日は寒さが身にこたへる、考へて見れば今日から愈々冬至で今年もあますところ九日きりない毎日のシケで濱には少しの漁もなく、さなきだに不景氣な濱町は何處も火の消えたやうな淋しさだ、寒さが身にこたえ、不景氣がしみじみする時師走を行 人々の思ひは一つたゞ嘆息あるのみだ、警察署と町村役場は協力して、極貧者を調査し、年末年始に當つて氣の毒な人々に幾分暖かい思ひをさせようとつとめてゐるが不景氣〳〵でこれ等の人々に贈るべき寄附金や寄附米がさつぱり集まらぬ、節約々々で村や町にはこの方に向ける豫算はない、濱に出ても海には行けず、歸れば痩衰いた父母や妻や子を見ねばならぬ、まづしい漁夫の家はどうなることか、記者は しい想像を胸に浮かべ外套の襟を立てゝ、つめたい濱風をさへぎりながら、シケ續きの濱町を歩いてゐたふと見れば籠を背負つた女の人や、鞄を下げた小學生や、自轉車を乘り棄てた商人等が、この町の或四ツ角に立つてそこの家の壁に貼られたビラを讀んでゐる故、母堂セツ子刀自の遺志により息鈴木藏吉氏は今回當町小學校へ金五十圓を寄附した四ツ倉町役場故母堂セツ子刀自の遺志により息鈴木藏吉氏は當町消防組に金三十圓を寄附した、四倉町消防組、何づれも新聞紙大の大きなビラに、大きい文字で書き込み町役場と消防組が寄附をした篤志家の名を町民に知らせてゐるのだ 終り

明日の天氣

（小名濱測候所）

明二十三日は北西の風で次第に晴れる見込みです

ポスト

平町の某家に今年二十五六歳になつてもまだ一人者で居る娘がゐる、近所の表具師連盛んに張りに行くがなか〳〵もつて張りきれない。話に聞くに大の強情者で自分の思つた事はなんでも通さなけりや承知が出來ないんだと。……或日針仕事をしてゐる處へ「コンチヤア、チナ、タンモノイラナイ？ やすい、ある、まける」とやつて來たのは例の中華民國の呉服屋さんこの時例の娘は返事をしまいと思つたのである。で顔を見たが默つて針を運んでゐた。民國先生又同じやうに云つた。四五回同じ事をくり返へした。すると民ちやん、がつかりした樣に「ナーンダツンポかばか〳〵しい」と云ひ捨てゝすた〳〵、娘君口惜しがつたが仕方なくしばし民ちやんの後見送つて……チヨン

（湖舟生）

庚午歳頭 讀者文藝を募る

……◇投稿締切り來る廿五日◇……

年中無休紙として在平日刊中一異彩を放つてゐる我が（（東北日日新聞））新年の紙面を飾る爲めに愛讀者諸彦の玉作を募ります。

▲隨筆……十二字詰五十行内外のもの

▲短歌、詩歌……派の新舊を問はず、清新の想調横溢せるもの

▲俳句、川柳……特に新年にちなめるもの（ハガキに一人五句以内）

▲郷土民謠……其他童話新年趣味豊かなるもの……等々

▲投稿は必ず……（俳句、川柳はハガキ）二錢切手貼用開封便にて東北日日編輯局新年文藝係と表記し締切前日まで投稿

東北日日新聞社編輯局

塔中の怪（五一）

無名氏

の言葉を思ひ出すと、吾知らず身の内がゾッとして何んとも言へず氣味が惡く滿身の勇氣も、好奇心も全く消えてしまう樣な心地もする、斯う考へてゐる時不意に長岡探偵はかいを握つたまゝツト私の方へ振り向いた「武田君突然！だだ一言聞いて置かねばならぬ事がある」私はびつくりして丸木舟の傾くのも忘れてあわたゞし〳〵身を起した

「何だ、何事だ」

「他でもない、今度この大事件の發端に我日本の大森の海岸で雪子姫が魔術の大海賊のために奪ひさられた時、その海賊の魔術にかゝつて生けるでもなく、死ぬるでもなく、恰も大理石の石像のやうになつて、所謂夢中生活におちいつた梅といふ女中があつたらう。」

「む」「その女中はその頃僕の豫言した通りに時日の經過と共に元の正氣に歸つたがね。君が日本を離れる頃にはすつかり夢中生活からさめて居つたらうねえ」

「む。その事か、たしかに君の豫言通り、僕がこの旅行に出る五六日前！—左樣彼女が大海賊の魔術にかゝつてから約二週間ばかり過ぎて、全く夢中生活からさめて、元の正氣に歸ると共に姫の奪ひ去られた事も、自分が石像の樣になつて居つた事も、すべて今回の事變をば初めて知つたかの如くしきりに驚きおそれ且つ不思議がつて居つたよ」

「よろしい」長岡探偵はうなづいた、恰も自分の豫言が的中せしに心を安ずるが如くそのまゝ口をつぐんで何事をも語らず一心に舟を漕いで行く、私は合点がゆかぬ、何故不意にこんな事を聞えたのであらうと、しきりに、いぶかつたが後にそれと思ひ當る時が來た、兎角する程に二里半の海上は、つゝがなくすぎて振り返つて見ると我等の出發した海岸は弓なりの灣のはるか／＼後におぼろにかすんで、此の邊は段と波荒く奇形な岩がいくつも波間に突立つてゐる、その間を巧みに通りぬけて、やがて丸木舟の着いた所は、深く灣が屈曲して右には巨人の

……的術藝し用應を光採の新最は影撮すまし致製調を眞寫……

肖像專門

中島寫眞館

……てに法光採　特獨館弊は影撮間夜んせまりあり變と影撮間晝……

共濟病院　各科專問

耳鼻咽喉科　醫學士　井上俊次郎
　醫學博士　渡部貞助
産婦人科　醫學博士　松枝茂
外科　醫學士　氏家憲介
　醫學博士　桂重次
内科　醫學博士　難波睦
　醫學博士　中西林藏
X光線科　醫學博士　難波睦
　技師　工藤慶造
衛生試驗所　醫學博士　中西林藏
　技師　小熊英夫
◉藥局　藥劑士　吉本孝平
本院醫事法制囑託　法學士　岡蕃
本院主任　賀澤忠治
一、衛生試驗所
一、病氣相談所
一、救療所
（共濟病院内）
◆共濟病院は皆さんの病院であります御氣付のことは御注意願ます
平町　電話六四一番
磐城共濟會
◎看護婦募集

冬の學生服
是非冬服もなかやで
コレならと自信を持てお奬め出來る生地裁縫共に申分ない黒小食服です

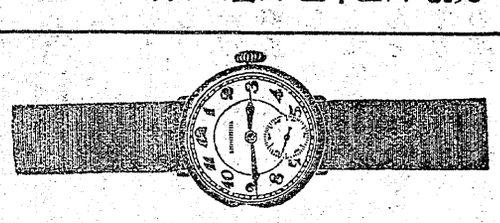
小學生用（長ヅボン付）

一號	七八歳用	一圓八十錢	
二號	八九歳用	二圓〇〇錢	
三號	九十歳用	二圓二〇錢	
四號	十一十二歳用	二圓四十錢	
五號	十二十三歳用	二圓六〇錢	

中學生用

六號	一二年生	四圓二十錢	
七號	二三年生	四圓四十錢	
八號	三四年生	四圓六十錢	
九號	四五年生	四圓八十錢	

◉各學校制定ボタンハ十五錢高
中學外套も十月中旬より賣出します
平二丁目
おかや洋服店
電話二〇五番



時計の御用は一直線に——
「ダイヤ堂ハ
確實…迅速…親切…廉價！
時計・眼鏡・蓄音機・貴金屬
ピクターレコード特約店
ダイヤ堂　鈴木時計店
福島縣平驛前（新道）
電話（呼）八〇五番

生徒募集
學則及び入學案内申込次第進呈す
時間迎歡貸

◎毎月一日新學期開始◎

自動車界今後の大發展に順應せんが爲め、本校茲に見る所あり、有爲の青年の爲め奉仕的破格の授業料を特定し大募集を開始せり。機は熟せり、先づ來りて本校獨特の教授を見られん事をのぞむ。實地練習の長時間にして學資の低廉なること全國無比、本校の最も誇りとする所なり。本校出身者の受驗者は實に七割以上の合格率を有し現在入學生七十餘名の多數なり。

一、本科　三ケ月卒業　六十圓
　學科實習費共　三ケ月分
一、速成科　二ケ月卒業　四十五圓
　學科實習費共　二ケ分月
一、受驗科　一ケ月卒業　三十圓
　學科實習費共　一ケ月分

◉受驗準備短期練習部　毎月試驗前十日間全學費……十圓
◉卒業生は試驗前無料練習の便あり
◉時間貸値下　新フオード　シボレー一時間三圓　T型フオート一時間二圓
◉入學料ハ今回ニ限リ免除ス

公認　磐城自動車學校　電話六四〇番
福島縣平町四軒町

貸切自動車の御用命は
昭和タクシーへ
高級車で乘心地の好い
昭和タクシー
平驛前
電話は三四三番
サシミ

冬服何柳ひ
女學生通學用オーバ
小學生通學用オーバ
中學生金ボタン外套
特賣
正札堂洋服店
平四丁目（停車場前通）

内外果實問屋
イ藤居商店
平町三丁目　電話五四三番

外科一般（入院隨意）
内臓外科專門
花柳病科
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九番

▼獨乙フンケル會社
製特用蓄音器、針着荷▼
第一、一本の針で五回も使用出來ます
第二、一本の針で高音低音自由
第三、舶來品として價格の安いこと
「ピアノ印」一箱（二百本入）五十錢
是非一度このピアノ印針を御試用願ひます
尚蓄音器の修繕は安く良く早く
御電話十九番へお掛け下されば早速お伺ひ致します
平三　大谷時計病院
電話十九番